

うめ吉 「情けは人のためならず」ってやつですね。でも時々戻って来なかったり、変なもんくつついて返って来たりしますけどね・・・(^^)

内山氏 パソ通で福祉機器のアイデアを持ってる人がいて、それが開発会社の目にとまって一緒に開発が始まり商品化された、というような話も聞きました。パソ通は、なかなか面白い可能性を持ってますよ。

特にパソ通は、人と出会うチャンス作りに有効ですね。僕はパソ通で人から人へのつきあいが広がって来ましたよ。

ナミねえ パソコンやパソ通は、長年されてるんですか？

内山氏 あ、僕ずーっとワープロしか使ってなくて、通信もワープロ通信だったんですよ。パソコンをやり始めたのは1年前です。

うめ吉 きっかけは？

内山氏 ネットワーク・コンソーシアムの皆が「パソコンをやれ」というので、始めました。僕がパソコンを使えるようになることが、ネットワーク・コンソーシアムの初仕事、というわけです。僕に使い易い環境を整えるために、皆で研究しましたから----

ナミねえ 内山さんの障害をモデルとして、という事ですね。

うめ吉 コンピュータ・ソフトの開発なんかも考えておられますか？

内山氏 研究会のメンバーにC言語の専門家なんかもいますから、そちらのほうもぜひチャレンジしたいですね。例えば、シフトロック機能がいろいろ出てますけど様々なサポート機器を障害に合わせて組み合わせ、トータルに使えるようなソフトなんか欲しいですね。

ナミねえ サポートといえば今日（日曜日）はご両親がご在宅ですが、いつもは・・・

内山氏 両親ともまだ働いてますから、平日はヘルパーが来る時以外、僕一人です。

ナミねえ どのような毎日を過ごされているのか、教えて戴けますか。

内山氏 10時起床。これは普段は母に、ヘルパーが来る週3回はヘルパーに起こしてもらいます。その後、全介助で朝食を

とって車いすに乗せてもらいます。

ヘルパーに買物や身辺整理、事務処理（主に郵便物の整理ですけど）をしてもらっていると、お昼になりますね。ヘルパーは昼に帰ります。

ナミねえ 昼食は？

内山氏 僕は1日、朝晩2食主義なので食べません。午後は殆ど1人でパソコンや書見台に向かっています。

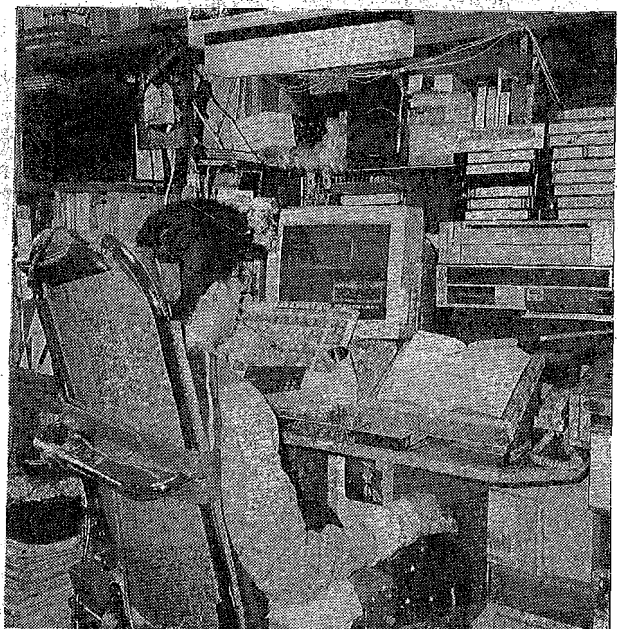
うめ吉 外出はあまりされないんですか？

内山氏 出ませんねー、僕は出不精なんですよ。それにここらは電動で入れる店なんか殆どないので・・・

ナミねえ 1人でおられる時は、どんな事を主にされてるんですか？

内山氏 研究会の資料作りとか論文書きとか・・・息抜きはやっぱりテレビかビデオですよ。ビデオのエアチェックはかなりやりますよ。テレビ大好きだからビデオ屋なんか、特に店が狭くて借りに行けないので、パソ通でビデオレンタルできたら良いのになー。

ナミねえ 日中、殆ど1人でおられる訳ですが、緊急時の対応などはどうされていますか。



〈口にくわえた棒でパソコンの入力。〉

内山氏 区の福祉事務所が近いんで・・・よく「火事になったら」とか緊急時のことを言われますが、僕は自分の意志で1人である以上、基本的には「あきらめて」ます。でも、実際何かトラブルがあったら困りますからね、できるだけたくさんの連絡先を確保しておくようにしています。

うめ吉 パニックにならないで対応できるかどうか、ですね。

内山氏 せっぱつまれば、何とかなるもんですよ。

ナミねえ 今までに、「緊急」と言うような事態になった経験はありますか？

内山氏 幸い、そんなにないんですけど・・・バルーンが裂けた時くらいかな。

ナミねえ バルーンというと？

内山氏 尿道のカテーテルです。僕はバルーンをずっと入れてるんです。

これが裂けると自立神経の過反射が起きて、頭がズキズキするんですよ。

ナミねえ その時はどう対応されたんですか？

内山氏 区の福祉事務所へ連絡しました。すぐ職員さんが自転車で飛んできてくれました。あと、痰がどうしても自力で切れなくて、この時は母が帰って来るまでゲホゲホ、ゲホゲホやってた。もう死にもの狂い・・・という感じでしたよ。

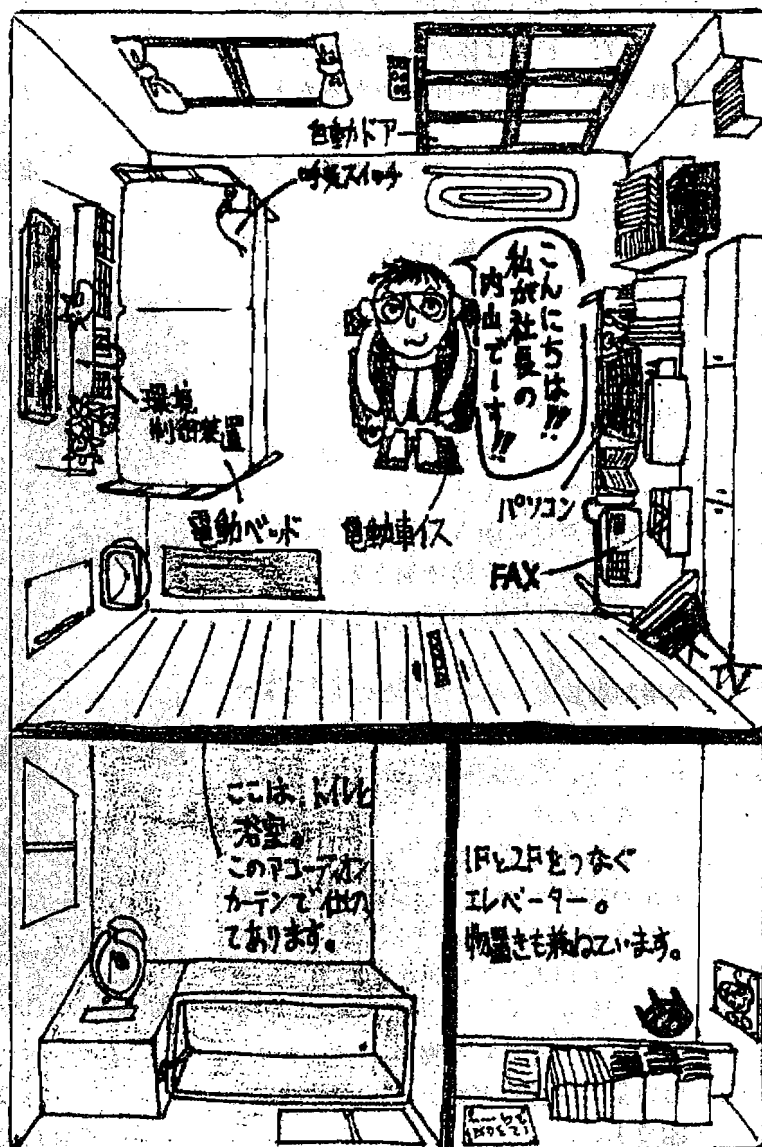
うめ吉 どっちも結構、怖いですねー。

内山氏 そうそう、怖いといえば、三原山の噴火の時。ここらもすごく揺れましてね、電動車いすが倒れそうになりましたよ。あれは、びびった！

僕の電動は車高が高いので、思わずリクライニングを倒したけど、あれは恐かったなー。

ナミねえ 自立とは「リスクを覚悟するものなり」ですねー。

夜は、何時頃に休まれるんですか？



〈内山さん作成の
自室の見取図〉

内山氏 だいたい夜中の1時か、1時半にベッドに入ります。でも、3日に1度の割りでベッド上での排便がありますので、その時は明け方の4時頃になったりしますね。

うめ吉 褥そう予防の、夜中の体位交換（寝返り）は何回くらいですか？

内山氏 体位交換は無しです。そのためにエアマットを使ってるんです。エアマットにするまでは、体位交換をしてました。

ナミねえ エアマットは、誰にでも褥そう予防の効果があるんでしょうか。

内山氏 殆どの人にあると思いますが、効果の大きい人と、そうでない人がいるでしょうね。購入する前に、試してみる事が必要だと思います。

ナミねえ どれくらいの期間試してみれば、分かるでしょうね。

内山氏 3日から1週間も使えば、分かりますよ。ただ、初めは体がふわふわして、慣れるまでに少し時間がかかるかと思っています。

サンケンマットは、ここらの事もきちんと対応してくれますよ。

ナミねえ 内山さんは、ご両親が亡くなられて全くの1人暮らし、というような状態を想定して自立へ向かわれてるんですか？

内山氏 全くの1人暮らしを目指す、というより少しずつ1人で居る時間を増やし、最低限どれだけの介助があれば自分はやっていけるのか、を試してる場所ですね。家族だけに頼るのじゃなく、社会システムとして介助体制を確立する、という方向に向きたいと思っています。

うめ吉 環境制御装置を導入されたのも、1人でできる事を増やすためですね。

ナミねえ そうそう、環境制御装置についてお聞きしなければ……。

どんな操作ができるんでしょう？

内山氏 手元のスイッチ1つで、室内の電気系統の全てがコントロールできる装置です。入り口のドア、インターホン、テレビ、ステレオ、エアコン、電話、電動ベッド、それらの物のオン・オフ・出力量の調整などが、一ヶ所で操作可能です。

ナミねえ リモコンの「元締め」みたいなものですね。ベッドの枕元にビニルパイプが出てますけど、これが……？

内山氏 口にくわえて、呼気で操作する環境制御装置のスイッチです。

ナミねえ 便利なものですねー。パソコンも、環境制御装置に繋がってるんですか？

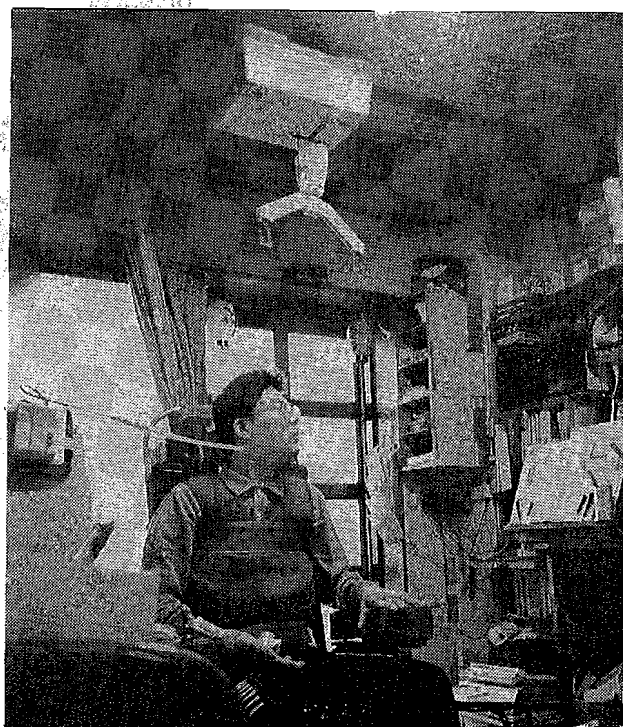
内山氏 いえ、パソコンは口に棒をくわえて操作します。それと、奥のエレベーターや天井のリフトは繋いでいません。

うめ吉 介助つきで使うものは、勝手に動くとかえって危険ですよ。

ナミねえ このスペースに、これだけの装置。まさに「重度頸髄損傷者自立リアリティ・モデル・ルーム」ですね。

内山氏 僕は、自分にとって必要な情報を、様々な手段や経路から得て、他の障害者やその関係者にも分かりやすい様に、また利用しやすい様に自らが加工し、その情報を提供することをライフワークにしているんです。これが、僕の仕事だと思っています。

重度障害者の就労の位置付けや、考え方には様々な方向があると思いますが、まずは、本人が自分にとって「仕



〈ベッドに取り付けられたパイプが環境制御装置のスイッチ。

天井には電動ホイスト。〉

事とは何か」を問い直すことが必要だろうと思います。

うめ・ナミ 今日長時間、本当にありがとうございました。

内山さんとネットワーク・コンソーシアムの皆さんの、ますますのご活躍をお祈りいたします。

茶飯事との接触後、暮れなずむTOKYOの街を同

じ運転手に東京駅まで送り届けてもらったナミねえとうめ吉は、夕食を済まして新幹線に乗ろうとした。事件はそこで起った。身障者用待合室のインターホンが何も答えない。慌てて改札へ行って駅員に連絡してもらおう。19:56の新幹線に乗らなければいけないのに、既に19:50をまわっている。駅員は「もう少し待って下さい」を繰り返す。そうこうしているうちに出発時間が来てしまった。駅員に再度尋ねると、「東海に乗られるんですよ。東海の駅長室に繋がらないんです。ここは東日本だから。もう少し待って下さい」。

のぞみは行ってしまった。次のひかりが出た直後、東日本の駅長が現れる。こっちは待てられないので、切符を払い戻して一番早いひかりの切符を買って、東日本の駅長と駅構内へ向かう。しかし、何か変だ。そう、その時駅長はどこへ行っているのか知らなかったのだ。しかたがないので、勝手知ったるうめ吉が駅長を案内する。地下道で、やっと東海の担当者と会えた。ほっとしたが、時間がない。エレベータは駅の南端なのにコンパートメントは9号車。9号車以外はドアが狭くて電動車いすでは入れない。。。

とにかく間に合った。

新大阪駅着は予定時刻1時間遅れの23:30。

(うめ吉)

* * * *



〈取材を終えて、東京駅でのツーショット。これが「○女と野獣」コンビだ!〉

延々、4時間にわたる「喋りっぱなし」の座談会。日頃「口から生まれたナミねえ」と呼ばれる私も、この日はついにギブアップ!

それにしても、テープ起こしは泣かされました。なにしろ、話題がコロコロ変わって、質問があって返事がある、というパターンに清書するのが至難の技。アニメの話題だけでなく、本当は「パソコンおたく」「パソコンおたく」の典型みたいな会話が、うめ吉と内山さんの間で勝手にどんどん盛り上がって行ったんですよー!

取材の翌月曜日、事務所に着くとFAXが入ってまして……

「前略 ご苦勞様でした。雑談が多かったの
で、まとめるのが大変でしょうが、とても楽しみに
しています。 内山」

だって!!

まとめたぞー!

(ナミねえ)

作業所訪問 「ワープロハウス」

訪問者

げんた
箱入り娘

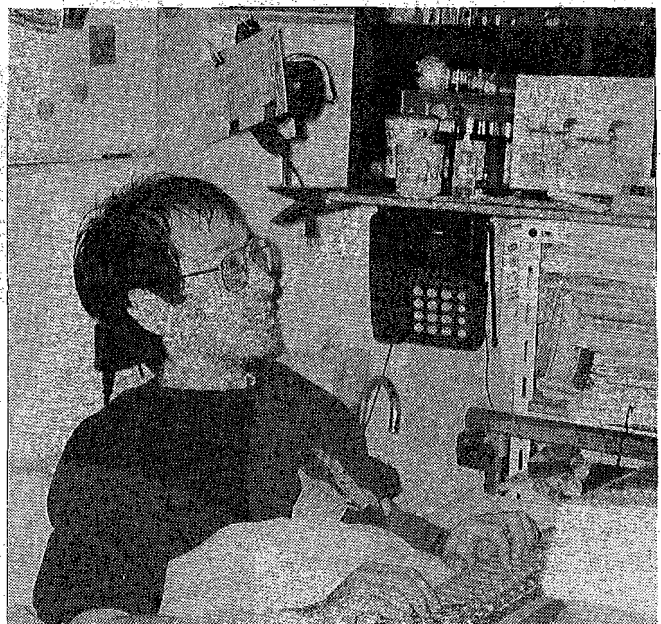
5月14日、私の日頃の行いのせいか、この日はあいにくの冷たい雨でした。そんな中、姉のなでしこ嬢のピンチヒッターである箱ちゃんと共に、大阪市生野区にある作業所「ワープロハウス」を訪れました。当方の準備不足で、畳の上でお話を伺わなければならないことを知らずに、電動車椅子でお訪ねしてしまったため、近くの作業所の方に抱えてもらって畳の上に座らせてもらうなど、取材にはいる前にいろいろお手数をおかけしてしまいました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回お話を伺ったワープロハウス役員の趙益秀(CHO Ik Soo)さんは、ベッドの上でキーボードを叩いて入力の仕事をしていました。子供の時に結核菌で胸髄を犯されカリエスになり、胸(みぞおちのあたり)から下の機能を失いました。車椅子に乗るのは体にきついで普段はずっとベッドの上で生活しているそうです。発足当初からワープロハウスのきりもりをされている方がこれほどの障害をお持ちだったことには驚きました。

ワープロハウスが設立されたのは'84年。知合いの作業所の指導員等から「コンピュータを使っての作業所ができないか」と話が出たのがきっかけで、前年から話し合いを繰り返し、バザーやカンパなどで資金を集めてワープロ、プリンターを購入し、10月に正式に発足しました。初めは手弁当、メンバーに交通費も出せない状態の時期もありましたが、自分達の力で解決し、ワープロハウスを発展させてきました。

現在ワープロハウスでは、障害者へのパソコン・ワープロ販売と、文書やデータの入力・印刷を行っています。畳の部屋にはパソコン・ワープロが数台あり、その前でメンバーの方が入力の仕事をしていました。地域がら、韓国・朝鮮に関する印刷物を作ることが多いので、ハングル文字や第3水準漢字を使っての印刷物作成を得意としておられ、これがワープロハウスの他の印刷所にはない大きな特色になっています。作業は6人のメンバーが10:00から18:00の時間帯で週6日行っています。しかし、納期の迫ったときなどは、それ以上に作業を行うこともあるそうです。また、通所の

困難なメンバーの場合は、電話で仕事を指示して在宅でやってもらっています。この形態なら比較的重度の障害者でも仕事をする事ができるので、ワープロハウスでは他の作業所より重度の障害者が多く働いています。給料に関しては、単純に仕事の量だけで決めると障害の重い人はいくら頑張っても少しの給料しかもらえないことになるので、その人の障害を考慮して決めています。そのため、他の同業者に比べて少し高い料金で仕事を引き受けています。それでも仕事があるのは、先に書いたような得意分野を持っていることと、発注者の希望通りの製品を作るだけの高水準の技術があるからです。高水準の技術を持つことは、障害の有無に関わらず、また障害者が行うからこそなおさら必要なことであり、ワープロハウスでこれができたのは、「ひとえにメンバーの意欲」だと趙さんはおっしゃっています。高水準の技術を維持するためには、各人それぞれの技術を高める必要がありますが、各人の努力で訓練してもらい、特に指導、教育するようなことはないそうです。



《仕事中の趙さん》

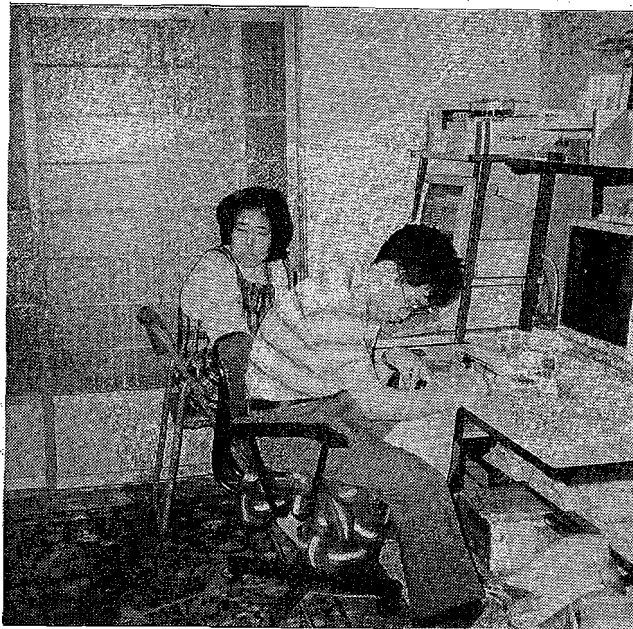
ここでメンバーのお一人で、プロップセミナーの受講生でもある木野内孝史さんに感想を伺いました。

「作業所で仕事をするようになって人間関係が広がった。初めは人と話をすることが恥ずかしかったが、今でははっきりと自分の言いたいことが話せるようになった。もっと仕事を覚えたい。また、今は自宅で家族と暮らしているが、将来はボランティア利用によって自立したい。」

趙さんの言葉がなるほど、とうなずける、将来に意欲を持って取り組んでおられる様子がうかがえました。

ワープロハウスは単に仕事だけではなく、親睦会としての活動も重視しています。メンバーで旅行にいたり、春には花見をしたりしているそうです。このように、作業所としての一面と、親睦会としての一面を持つワープロハウスですが、これら一見無関係に思える2つの面には、実は共通のテーマがあります。それは“障害者の自立”です。広く人と接することによって自らの積極性を高め、社会性を身につけることがワープロハウスの最終目標であり、そのための手段として仕事や親睦が位置づけられているのです。このことはワープロハウスの体制にもよく現れています。

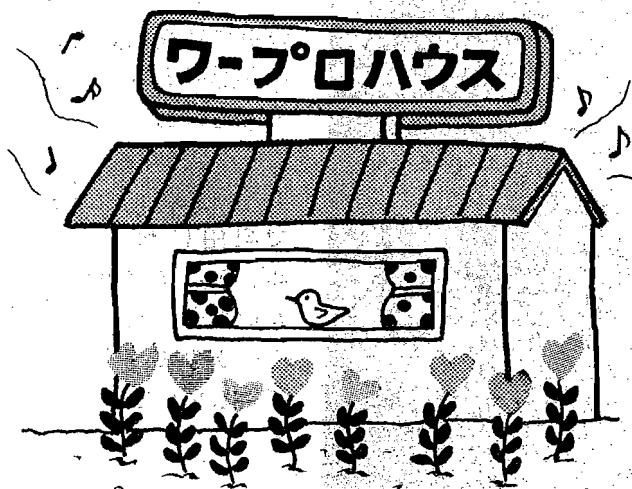
「重度の障害者が多いにも関わらず、障害者が中心になってやってきたことが誇り」と趙さんはおっしゃっていました。健常者のリーダーが方向を決めてぐいぐい引っ張っている作業所は多いのですが、ワープロハウスでは運営など全てのことをみんなの話合いで決めています。つまり、メンバーの積極性や社会性を高めることを重視して、このような方法を採用しているのです。「障害者だ



〈ここが職場だよ〉

からといって『他の障害者のため』などと特別使命感を持って仕事に就く必要はない。遊び人の障害者がいてもいい。」趙さんはこのような表現をされました。自立が最終目標で、仕事はそのための方法の一つという考えがよく分かる言葉だと思いました。障害者と仕事の将来像に関しては、「一般の企業で障害者が働けるようになることが本来の姿だと思うが、そのためには企業だけでなく社会全体に障害者を受け入れる体制ができることが必要。それが実現すればワープロハウスは単なる親睦会になってもいいと思う。」とおっしゃられました。

私自身、「作業所」という所に接するのは今回が初めてで、作業所とはどんなものなのか、あまり分からないままお伺いしたのですが、いろいろ興味深いお話を聞かせていただき、ありがとうございました。ワープロハウスの皆さんのますますのご活躍をお祈り致します。



ワープロハウス

〒544 大阪市生野区田島1-14-18

TEL.06-751-0914 FAX.06-753-5939

会長 柘 邦彦

(報告：げんた)

「人」クローズアップ! 6

さかつめ み と
坂爪 三津 さん



このコーナーで紹介させていただく方には直接インタビューをして、というのが原則だったのですが、今回は誌上初! パソコン通信によるインタビューでがんばりたいと思います。はてさて、どうなりますことやら……。 (大和なでしこ)

◎現在までのプロフィール◎

生年月日は1964.4.11。したがって、現在、29歳。脳性マヒによる2級の肢体不自由者。生後三日目に罹った肺炎のために高熱を数日続けたことが脳性マヒの原因?と言われてます。小/中学校は近所の普通学校へ。小学校3年位までは母と一緒に通学。歩けるようになったのは4年生の頃? 高校は宮城県立第一女子高校。卒業してから4年間バラ色の浪人生活をおくって東北大学教育学部教育心理学科へ滑り込み。いかにも頑張ったように見えますが、実は他に行き場所がなくて予備校に通っていただけ。専攻は心身障害学。卒論のテーマは

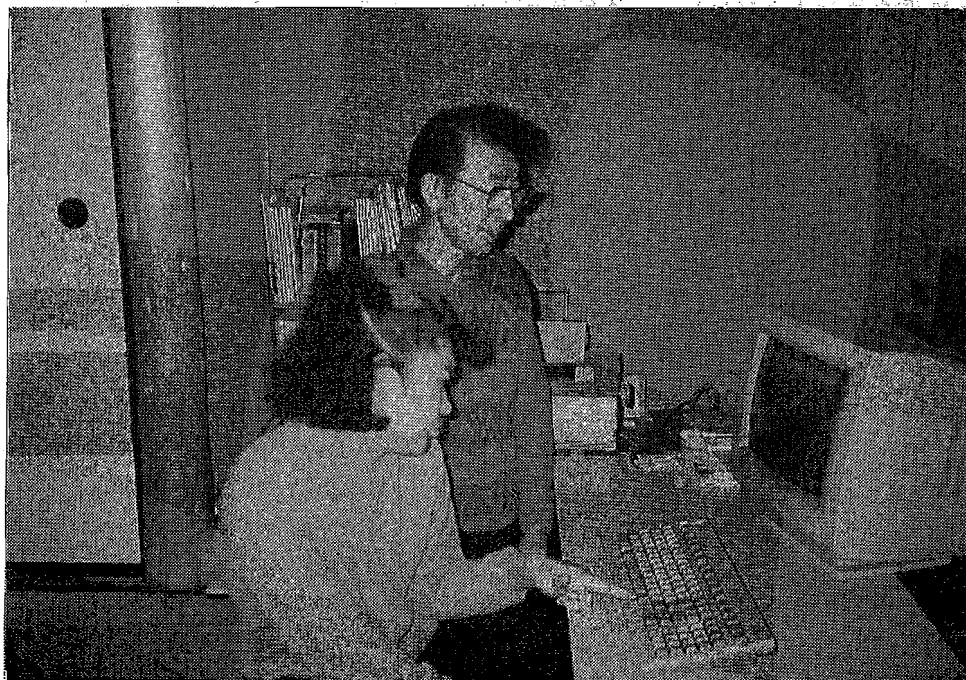
【障害者の就労】。卒業後はある大手コンピュータ会社へ入社、一応はSE (システムエンジニア) として採用されました。

* 卒論のテーマが「障害者の就労」ということですが、もう少し詳しく伺ってみました。

卒論の内容は、私自身満足いくものではなかったのですが、現在企業に勤めている人達、5人ぐらいから話を聞かせていただいて、その内容(現在の勤務先をどのように見つけたか等)をまとめる形を取りました。ただ、障害が軽度だったこと、障害の部位が様々であったこと、インタビューし

た人数が中途半端だったこと等のため、方向が絞れず漠然としたものになってしまいました。

またその当時、私の中には在宅勤務という形態を対象とする考えはありませんでした。結局、自分が一応、自分の意志で自由に動けるため、そこまで思いが及ばなかった、というのが事実です。恥ずかしながら。



<<自宅のパソコン前でお父さん(新一さん)と>>

私が、初めて坂爪さんにお会いしたのは、昨年神戸で開催された第7回リハビリテーション工学カンファレンス（リハ工）の会場でした。お会いしたというより、一方的に私が坂爪さんの発表を聞いたというだけなのですが、、、。また、彼女が発表した作品（SKLというキー保持のソフト）は、フロアにも展示されており、その横に「ソフト希望の方にはお分けします」という案内もされていました。もちろん、私も当時は98ユーザーだったので、どんなものかと興味しんしん、申し込んだのでした。

◎SKL開発のきっかけ、経過、その後など◎

大学2年の頃まで、文字は手で書いていました。ところが学年が進むにつれて次第に書く量が増えてきて、手書きで間に合わなくなってきました。統計解析のプログラミングの必要もありましたし、また卒論を書く作業も念頭にあったりなどしてパソコンを使うことにしました。

キー入力で苦勞することはそれまでの経験で判ってましたので、なにか便利な回避手段があるだろうと思ってかなり入念に調査してみたのです。[SHIFT] キーなどにおもりをのせてキーの同時打ちをする方法などもありましたが、もう一つのリピート機能の問題については既存の方策は何もありませんでした。そんなことで、父と相談してソフトを作ろうということになりました。どんなソフトにするかを私が考え、プログラミングは父が分担しました。二人ともパソコンは素人でしたが、[原理的に可能の筈だ] というだけの無暴な論理を拠り所に作業を始め、ほぼ3カ月ほどで実用的なものが完成しました。

製作の動機は自家用だったのですが、同じような悩みを持っている人達が他にもいるかもしれない、そういった人達の役に立つのでは、ということで1年ほど経ってから配布を始めました。現在はむしろ非常に積極的に配布しています。私達としては、これまでワープロ／パソコンに縁のなかった在宅身障の方々にパソコン／ワープロの有効性を知らせたいのですが、そういった方々へ情報を伝えることは大変難しいと痛感しています。パソコン通信も確かに有効そうに見えますが、現実にはまだ局在した世界です。そうでない世界のほうが圧倒的に大きいのではないのでしょうか。情報を本当に伝えたい部分にはなかなか伝わらない、情報を伝えるためにはかなりの努力が必要だというのがこれまでの実感です。

さて、今の私はと言えば、実はこのソフトに殆ど関わっていません。学生時代には父と協力して一緒に動いていたのですが、就職してからは時間的／精神的にその余裕がなくなってしまったのです。昨年5月のリハ工カンファレンス（神戸）と同年9月の特殊教育学会（仙台）での発表だけは責任分担ということで私が担当しました。特殊教育学会は大学時代の先生が組織委員長をされ、場所も仙台だったものですから地元の気安さも手伝っておしゃべりしました。という次第で、現在は父がほとんど一人でやっているのが実状です。そのうち、ゆとりが出てきたらまた始めようと思っっているのですが・・・・（どうなりますことやら）？

お父さん（新一さん）は、東北大学教育学部の教授をされています。お電話でお話をさせていただいた時は、“大変やさしいお父さん” そのものという印象を受けました。

さて、卒業後、一般企業へ就職されたわけですが、就職先の決定、就職活動などはどのようになさったのでしょうか？

◎就職するに至った経過、就職活動状況など◎

いろいろ迷ったのですが、福祉関係も公務員も気が進まず（親は切に望んでいたらしいですが）、大学院か企業にと考えました。が、大学院は、頭のレベルが違い過ぎて・・・・。企業も、友人には山と来ていたダイレクトメールが、障害のせい、年をくっているせい、半分も来ず、結局「日本障害者雇用促進協会」が主催した企業と障害者の引合わせ会で現在の会社に滑り込みました。

仙台にも宮城県障害者雇用促進協会（支部みたいなもの）がありまして、そこが主催だったので、企業と障害者の引合わせ会も仙台でありました。（企業面接では東京にも行きましたが。）その時に私が会ったのは確か4企業だったと思います。両指名制だったので自分の希望が3社、相手からが1社だと思っています。引合わせ会以外には（人よりは少ないですが）、個人的に会社説明、訪問等も行きました。結局、内定まで進んだのは現在の勤務先だけでした。

私が進路を選択する時に「企業でどれだけやれるか」という自分自身に対する挑戦（？）には、3年目になった現在、まだ答えを出せないでいます。とりあえず、失敗だったとは思っていませんが。

◎現在のお仕事の内容など◎

コンピュータと向い合っているのが好きでSE希望だったのですが、どういうわけか会社に入って配属されたのが、予算を組んだり、業績を管理したりする管理業務。当分、この業務から抜けだせないようです。

◎パソコンのサポート機器など?◎

サポート機器と言ったら何でしょうか? モデム以外にはパソコンに関係するものは何もありません。私の家にはいわゆる電化製品が殆どありません。ビデオも無いんですよ。就職して最初のボーナスで買ったCDプレーヤが部屋に運び込まれて来た時には、舞い上がった!!

◎最後に言いたいこと!◎

大手コンピュータ会社のOA企業に身を置いていますから、大きなことを言える立場にないのですが、提言が二つあります。どちらも、障害者と健常者が同じ機器を共通に使用可能であるべきだという点では基本的に同じ主張です。

まず在来パソコン/ワープロについてですが、私達が作ったような基本ソフトは本来メーカサイドで提供すべきものだと考えています。アプリケーションソフトとはソフトの位置づけが違うと思うのです。私達のようなアマチュアが作ったソフトがパソコンの中核部で働いているのは、どう見ても健全な姿じゃありません。最も重要な点はソフトの維持/管理/継続性という問題です。私達は出来るだけ永くこのソフトをサポートしたいとは考えていますが、アマチュアの立場では限界があることは明かです。

また、ソフトの権威という問題も重要です。アプリケーションを提供するソフトハウス、ソフト

を利用するユーザ、特にパソコンについてあまり知識を持たないユーザの両方に対して重要だと思っています。メーカ提供の基本ソフトだったらソフトハウスは黙殺できないでしょう。また、ソフトを使う側からすればソフトに対する信頼感、あるいは安心感が全く違う筈です。

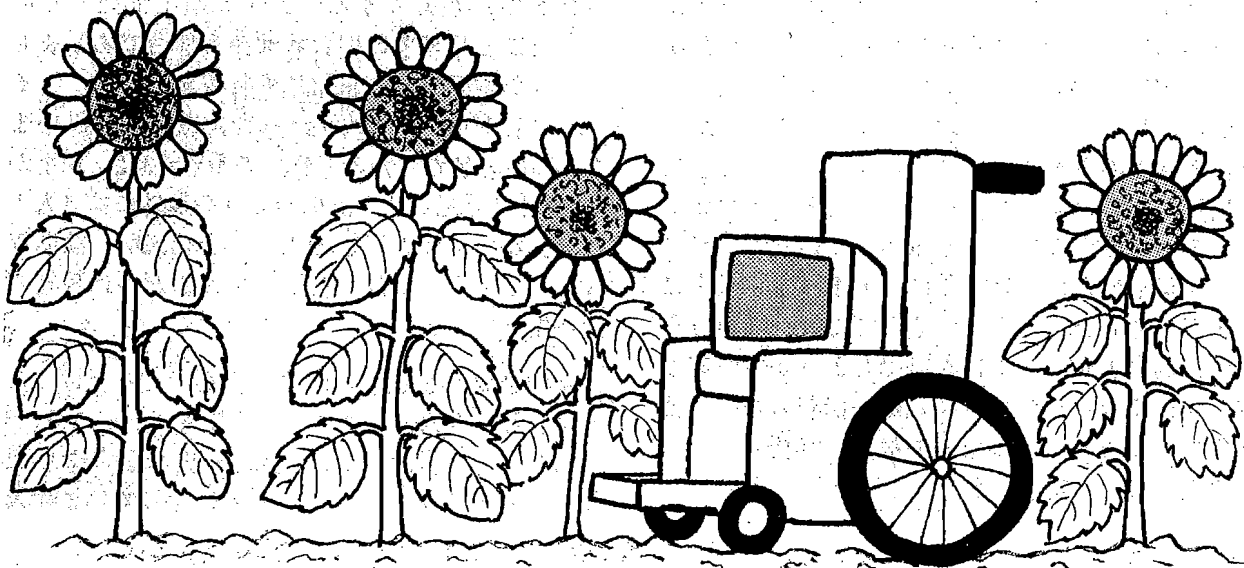
次に今後の機種についてです。これからのパソコン/ワープロが、私達のソフトで実現しているようなキー入力機能をシステムとして持っていて何の問題もありませんから、是非そうあって欲しいと願っています。パソコン/ワープロが健常者専用機器というのはなんとも不自然かつ理不尽だと思いませんか。

こういったこととは別に、コンピュータの技術面から見ても、キーボードはもう少しインテリジェントであってもいいんじゃないかと思うんですよね。役割はちょっと違いますが、FDCやGDCのプログラマブル性から見るとキーボードインターフェースは原始的なほどにシンプルです。ユーザはキーボードを殆ど制御していないんです。

* * *

いかがでした?? パソコン通信による「人クローズアップ!」は? この方式だと、インタビューされる方(今回だったら坂爪さん)の方が、たいへんかもしれません。原稿をまるで作っているようなものなんですから。。。

今回は、体調もあまりよくなかった頃だったようですが、快く引き受けていただきました。体にはくれぐれも気をつけて、これからもお仕事に、プライベートにがんばってくださいね!!



風流 京愛の俳句コーナー

石田京愛

今号から俳句のコラムを書かせて頂ける事となりました。僕なりに精進してまいります。このコラムが他の記事同様、皆さんに楽しんで頂けたら幸いです。

コラムということで、スタイルは稚拙ではありますが、自句2、3句とその句の簡単なコメント、そして季節に合った出来事などがあれば書いていきたいと思います。張り切って書こうなんて思っておりません。自然体で、気取らず、なすがまま、思うがままに書かせて頂きたいと思います。

今は夏です。夏らしい句をお楽しみ下さい。

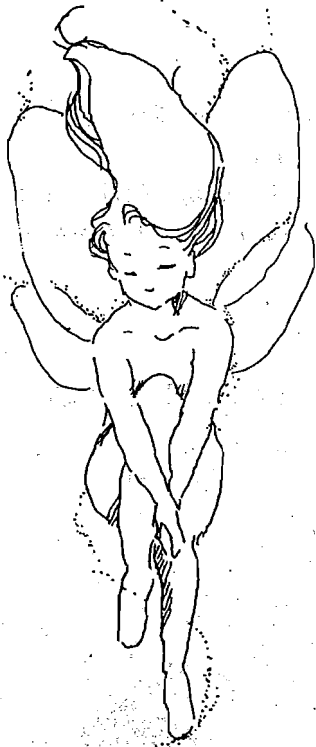
そうぼう

サングラス女の双眸隠れけり

・初夏の街をいなせな女性が黒髪を踊らせ闊歩しています。

風鈴の向こうの透けてゐたりけり

・耳に心地よい夏の声がします。透けて見える俗世は・・・。



オルゴール夏の疲れの奏でけり

・思い出は美しすぎて・・・。ツンとした顔でオルゴールは回ります。少し妖艶かな。